

特別寄稿

米「WRAPSCON」に出場

株デザインラボ 代表取締役 荻谷伊

今年7月20日から22日にアメリカのロングビーチ、カルフォルニアコンベンションセンターで「NMB SHOW」が開催されました。

今年7月20日から22日にアメリカのロングビーチ、カルフォルニアコンベンションセンターで「NMB SHOW」が開催されました。

今年7月20日から22日にアメリカのロングビーチ、カルフォルニアコンベンションセンターで「NMB SHOW」が開催されました。

今年7月20日から22日にアメリカのロングビーチ、カルフォルニアコンベンションセンターで「NMB SHOW」が開催されました。

今年7月20日から22日にアメリカのロングビーチ、カルフォルニアコンベンションセンターで「NMB SHOW」が開催されました。

今年7月20日から22日にアメリカのロングビーチ、カルフォルニアコンベンションセンターで「NMB SHOW」が開催されました。

今年7月20日から22日にアメリカのロングビーチ、カルフォルニアコンベンションセンターで「NMB SHOW」が開催されました。

WRAPSCONの中でも、今回は「WRAP SOLYMPICS」と題し、貼るに特化したコンテストが開催され、私はカナダ在住の日本人で、サイン製作会社に勤める長谷川景一さん

WRAPSCONの中でも、今回は「WRAP SOLYMPICS」と題し、貼るに特化したコンテストが開催され、私はカナダ在住の日本人で、サイン製作会社に勤める長谷川景一さん

WRAPSCONの中でも、今回は「WRAP SOLYMPICS」と題し、貼るに特化したコンテストが開催され、私はカナダ在住の日本人で、サイン製作会社に勤める長谷川景一さん

WRAPSCONの中でも、今回は「WRAP SOLYMPICS」と題し、貼るに特化したコンテストが開催され、私はカナダ在住の日本人で、サイン製作会社に勤める長谷川景一さん

WRAPSCONの中でも、今回は「WRAP SOLYMPICS」と題し、貼るに特化したコンテストが開催され、私はカナダ在住の日本人で、サイン製作会社に勤める長谷川景一さん

WRAPSCONの中でも、今回は「WRAP SOLYMPICS」と題し、貼るに特化したコンテストが開催され、私はカナダ在住の日本人で、サイン製作会社に勤める長谷川景一さん

WRAPSCONの中でも、今回は「WRAP SOLYMPICS」と題し、貼るに特化したコンテストが開催され、私はカナダ在住の日本人で、サイン製作会社に勤める長谷川景一さん

ラッピングに焦点を当てた祭事

今回は、その展示会内で年1回実施している「WRAPSCON」が行われました。WRAPSCONはサインの中でもマスキングフィルム、特にラッピングなどに焦点を当てたイベントで、今年も3M、AVERY、HEXIS、ORAWRAPSCONに出場した荻谷伊と長谷川氏のチーム「SAMURAI」



WRAPSCONに出場した荻谷伊と長谷川氏のチーム「SAMURAI」

WRAPSCONに出場した荻谷伊と長谷川氏のチーム「SAMURAI」

WRAPSCONに出場した荻谷伊と長谷川氏のチーム「SAMURAI」

WRAPSCONに出場した荻谷伊と長谷川氏のチーム「SAMURAI」

WRAPSCONに出場した荻谷伊と長谷川氏のチーム「SAMURAI」

WRAPSCONに出場した荻谷伊と長谷川氏のチーム「SAMURAI」



スーツケースにフリーデザインラッピング(B)、カーラッピングの競技



スーツケースにフリーデザインラッピング(B)、カーラッピングの競技

戦、2回戦を順当に勝ちました。この競技は、私たちサイン製作会社が行う様々な「貼る」という業務が、余すところなく盛り込まれているのが特長です。制限時間は短く、課題を完成できないチームも多数出ました。いくら早く仕上げてもシワや埃、めくれ、気泡、不正確な位置はすべて減点対象でした。

翌日、ベスト8に絞られる午前の3回戦。課題は与えられたフィルムを解いていないとキレイに貼ることができないというものでした。スーツケースには、本体に3つの凹みがあり、側面と角の処理はフィルムの特徴が理解してないとキレイに貼ることができないというものでした。スーツケースには、本体に3つの凹みがあり、側面と角の処理はフィルムの特徴が理解してないとキレイに貼ることができないというものでした。

そして、運命の3日目、セミファイナルを迎えました。ここでは、車両片面の側面全てにインクジェットの出力メディアを、1時間で仕上げる「カーラッピング」が課せられました。ベスト4に残ったチームは、この業界では世界でも名の知れた職人ばかりだったこともあり、ここで敗退となりました。

決勝戦は上位2チームが車両側面にフリーデザインラッピングを行うの地位向上になるのとは思い、これからも精進していきます。

選手権2位だったイステイバン氏と、ハンガリーから来米した世界ラッピング選手権で2年連続優勝のキス氏によるチーム「ハンガリアン」が優勝しました。

このようなラッピング競技は現在、欧米をはじめ世界各地で行われています。

私も同様なコンテストの参加は5回目でしたが、競技課題をこなすには、日頃から仕事での意識と段取りを養って業務しないと、仮に出場しても制限時間内で課題を終了することもできないため、普段の作業での注意点も見えてきました。

日本でも今回のような競技が開催されれば、若手の職人育成と、技術の橋上に役立てるようになります。現在、どの業界でも職人不足が取り沙汰されていますが、サイン業界で頑張る方々の一層の地位向上になるのとは思い、これからも精進していきます。